

[illegible]

其

此の外は東洋通商の盛況極まりなき事なり
 日本鐵道内各社發會社が何れも巧に事業
 遂げ好成績を擧げたるは新聞以來延達
 の顯達盛の盛況に徴して事實の証明す
 なりといふ

●營口の現況

鐵道の通開以來人心を安堵したると
 一般の商民は漸々恢復せんとする傾
 け市場交易に相成る處の興復頗る如く
 家庭を信用を回復して從て上海爲換も亦
 恢復し日本は千兩に付たり八百六十五兩
 銀の重きを當時は僅に四兩至五兩に
 差なりしや今は僅に四兩至五兩に

は余に於て尤も快感を覺ゆ、其事の
 事、可成し可笑し、其事の
 的也、其意遂にや山湖畔の朝
 色を稱び來る光景の如何に寂寂の趣
 余は眞實を覺す、余は人の以て不快
 の光景人の以て感ぜざるものを此
 快とす、余も又同様の性格な事かも知
 可及の治癒なれ、治癒は
 鐵の道田にあらずや細延秘忍にして
 得なむ、い、彼の精神を流の爲す所
 に依り自己を誤知する社會を善す、あ
 る人々を以て誤りすや、
 又、此種を犠牲とし、自己の渾身の
 力を、世にさんむる、愚癡の所爲也

馬より下す箱の中
 何の泥炭かひうひらん
 箱裏と裏とに
 ぬねぬの意なきならず
 とろろの馬足の音
 マヤブが英の武者時ひ
 鐵橋の袂に迫る時
 月入り果てくつとなり
 天より二つの星が陥つ
 我がハグドリン兵隊の
 後に近き鐵橋に
 日暮の軍馬散りて

てゐる。明白におきか下してゐられた
 之で、主人野々介政保の命に依りて
 兵衛助、風呂敷を允儀でござんを、重要
 水戸をたしなました。それが、大いの勤
 王様さまを助はつて、蘭表を武蔵修業の場
 立かたし、いまより、伊能を包ます作
 術に物懸ると、作術衛は手打打合せ、作
 術の物語りを承たまけまして、英
 なるふとを又、蘭表なるふとを知りま
 合はせ申すものがござんす。定りしお
 りなかも知れませんが、暫時お待下さい。作

[illegible][illegible]

るを免れず、此實爲無常。普通生存者の
能く見る所見也。
病者は飽食を絶て、睡眠を調すべし。弱き者は飽食
登するの時にすれば自己は遂に勝利の
勝手に乗敵したる方便の機也。見よは
の劇劇に通じ此の方便術を除くや
は破滅するよし之を利用するに
は要らざるなり。

祭りは絶わぬ武士の豪
 怨を結ぶ敵来り、
 侵す兆の見ゆる時、
 鳴動すどさ哥の傳ふ。

講談

討仇武勇の譽
 (廿一回) 本 井竹 林澤 河
 本 社 員 澤 和

れいこから三人組をさして追かけつに
 の密なる處が、真野に別たな七人のもの
 し舞へかゝつて心は矢竹にはふれぬと

[illegible]

我が帝國の主權を喪失し、愚に傾ゆるは我を以てするものがないであらうと云ふ事はない、斯く是等の内に依二種の差別がある。一、小兒無頼頭地から民衆を野蠻化せよと云ふ事は、此は愛國の要諦止み難くして事と起すに及ばずしもその政策を誤解せしより出でしもの此故云ひながら、後者に至りては大に其毒害の甚むべき處のがある。斯る徒勞に仰つて、前者に對するとは同じく威嚇を加ふるは、而も取らざるの策でありませう。善く彼等をして我國の政教を勿忘せしむる機しなけれはありませぬ。情勢として我が國の厚意

に、彼國時代の歴史は實に鮮やかな文明を有して居た。然し今日東洋の先覺といへども、彼らの任じ、施さざりし所の多きを思へば、彼らの文化に負ふことの多きと思へば、彼らに效ふべからざる點に申すべきは出來させぬ。故に韓國を開闢するものは國民教育の普及と計るのが、最大急務かと感じ、今この朝鮮關係に於て、其政策上は是なりすれば、今後は果も角も、今日までの處民では學者は使れぬやります、実業家は學問が乏しく、其故が彼れにあるます。爲地勤ふとも應ずれば、吾族其利便を得ばかりです。然るに我輩の進路漸次畫々嚴密

戀愛の情を以て離さなければならぬ。或る恰も我族新滿洲に於ける米國が我國に對する如き態度を以てせなければならぬ事をいふ。故に私は今後我國民が續々韓國に進出して、文明の氣運を彼地に弘布するとは甚だ喜ばしき事なるべし。故に、彼國を服さなければならぬと思ふべく、之と共に一方には漢時着の成るべく高尚優良人物たらんと希冀致します。

報

●我造船術の大進歩
近來我國の造船術は著しく進歩し殊に海

[illegible]

といふは如何なる邊の臨海の性格を以て
 然る如く其精神で支れ、其意志の洗練に感動
 するにして余は實に益處に富み、尤も
 民主主義の河を渡る勇なり阿々

してゐる横へ歸かぬ邊に來て有つてはせす七人は殘らず歸につきました計で手強く吟味をする中にも三上喜吉が幼い如く吟味をくわしく仔細を尋ねてゐるが明細に白状をいしたところ三上喜吉は家來さへも權内を入れて三四名もここにすからさびしく意見を加へて放ちやう三上喜六といふ奴は萬野軍兵衛が殺したと手傳つた罪もございます當な刑に行なはれる重太郎兄は勿論は仙童左衛門は閉門となる高街は仙童を立止めて下野に送つて關

第三十回 白刃の血を流して

大勢、擧出したに依て、御身等の身の位を尊
 尊なり。其日、攝者が主命に依て、御石の路へ歸
 過し、御身の持間と止り、川添の役所へ、御南無
 を取り申した次第でござい、ます之れな
 太平といふ人は、御身の兄君重盛のつぎま
 御身の類ぶる、愚人のやうな心持ですゆめ
 と話しをなさるがやうしい手前は之れ、神
 御魂と申す、と作兵衛は立歸りました。

報
人
報

4

向君家。答石磯。吾將四

氣、

に行なはれる重太郎兄

勿誤

雜報

王れり
戦争の結果如何にかゝはらず吾人は次の豫

●祝捷大使一行

●地質調査　近來韓國に於ける農業鑛山等の事業を經營せんとするもの増加したるため農商務省にては此際韓國に於ける地質其

結する由にて此程米國より材料到着し昨今
その組み立てを急ぎ居りたまは右に外區
開列車は毎日其各驛間より二列車乃至三

併號等の要件と手控へ置き紛失又は消滅の場合に代り証書又は代り債券請求の用に備へ置くは証券の保管上當然なすべき手續な

六百六十七圓卅一錢
卅五圓
七圓六十九錢
計七百二十圓

經常費
臨時費
雜備費

角野商店 入江町にある金物店にして鐵
土木建築用金物亞鉛引半浪板鋼鐵線並に
人向諸金物等の卸小賣を爲しつゝあり

